

# 広がる「ビブリオバトル」

## 青森県内 高校、図書館で開催

知的書評合戦「ビブリオバトル」を実施する動きが青森県内でも広がっている。毎年秋には八戸市で「ビブリオバトルin八戸」(デーリー東北新聞社、八戸学院大の共催)が開かれるほか、県内の高校や図書館でも行われている。お気に入りの本を対戦形式で紹介し合うことから、子どもから大人まで楽しみながらさまざまな本に出合えるのが魅力の一つだ。

ビブリオとは、ラテン語で「本や書物」という意味。元々は2007年、日本学術振興会特別研究員として京都市に着任した谷口忠大さん(現・立命館大情報理工学部教授)が考案した。従来、大学のゼミなどで行われてきた輪読会や論文紹介をより面白くやれないかーと思ったのがきっかけ。当初は京都市や大阪など関西圏の大学を中心に広まり、10年に「ビブリオバトル普及委員会」が発足したことで全

国に拡大、現在は47都道府県でさまざまなビブリオバトルが実施されている。

参加者が面白いと思った本を持ち寄り、制限時間5分以内で本の内容や魅力を紹介。後に参加者全員でそれぞれの発表に関して議論し、最後に「どの本が一番読みたくなかったか」を基準に1票を投じて優勝(チャンプ本)を決めるというのが公式ルールだ。

近年では、県立八戸高や八戸東高、青森明の星短大など高校、大学で行われているほか、公立図書館では十和田、三沢両市でも行われ、徐々に広がりを見せている。

長年、ビブリオバトルに携わる八戸学院大短期大学の茂木典子教授(音声言語学)は「読書は人の人生を豊かにする方法の一つ。その意味でさまざまな本に出合うチャンスがあるビブリオバトルは意義ある取り組み」と強調。「多くの学校でもぜひ取り組んでほしい」と呼び掛ける。

(須田山裕太)



八戸市で行われた「第5回ビブリオバトル in 八戸」  
＝昨年11月、デーリー東北新聞社